



給食たより

令和4年度1月号
調布市立調布小学校
校長 横山 公一
栄養士

新しい一年が始まりました。皆さんは今年の目標は決まりましたか？給食室の目標は、いつものことながら「安全・安心なおいしい給食づくり」です。どうぞよろしくお願いいたします。

1月は、これから始まる一年を無事に過ごせるようにと願いを込めた、行事や行事食がたくさんあります。今年も食事をしっかりと、健康に過ごしましょう。

1月の給食目標

食文化を知ろう



正月の鏡もち、ひな祭りのひしもち、端午の節句の柏もちやちまきなど、日本の行事食に「もち」は欠かせません。家庭で行事食を作って食べる機会が減っていますが、「もち」や「もち菓子」は手軽に買って食べることができます。行事にちなんだ食文化を大切に受け継いでいきたいですね。

お雑煮 (正月)	はなびらもち (正月)	鏡もち (正月・鏡開き)	ひしもち (ひな祭り)	ぼたもち・おはぎ (春と秋の彼岸)
おも 主に、東日本では角もち、西日本では丸もち、香川県では、あん入りの丸もちが使われます。	桜もち、花見だんご (桜開花のころ)	柏もち、ちまき (端午の節句)	月見だんご (十五夜・十三夜)	亥の子もち (旧暦10月の初めの亥の日)

お年玉は、もともと“お金”ではなく“もち”でした。“歳神様”という新年の神様からの贈り物として、お供えのもちを子供たちに分け与えたことから始まった習慣です。

全国学校給食週間 1月24日～30日

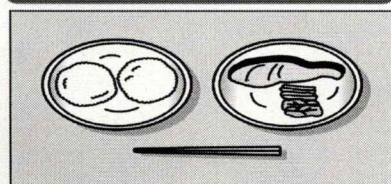
明治22年、山形県の小学校で家が貧しくてお弁当を持ってくるのでない子どもたちへ昼食を出したのが、学校給食の始まりとされています。その後、学校給食の取り組みは全国へと広がりましたが、昭和16年に太平洋戦争が起こり、徐々に食料不足となり実施することができなくなりました。

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化が心配されたことから、学校給食の必要性が叫ばれるようになり、アメリカの民間団体(ララ)から贈られた物資で給食を再開することになりました。昭和21年12月24日、東京、神奈川、千葉の三都県の学校で試験的に学校給食を再開することになり、給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」とし、冬休みと重なるため、1か月後の1月24日～30日が「全国学校給食週間」となりました。



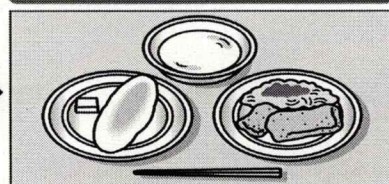
給食の移り変わり

◆明治22年



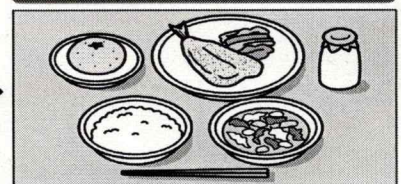
お寺の中に開校された私立忠愛小学校の献立の一例。米飯と野菜や魚のおかずが中心でした。

◆戦後(昭和25年ごろ)



パン・ミルク・おかずが基本で、外国などから贈られた支援物資の脱脂粉乳や小麦などを使って作られました。

◆現在



郷土食や行事食を取り入れるなど、バラエティー豊かです。また、バランスの良い食事のお手本となるよう、“教材”としての役割も担っています。